

磯部小学校

校長室だより

第9号 令和6年10月16日(水)



全国学力・学習状況調査結果と分析

6年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果の概要についてお知らせします。

この調査結果は、子ども達の学力の一部ではありますが、実態を把握できるものであり、よりわかる授業への改善につなげるよい資料と考えています。

本校では、今回の調査結果を分析し、下記のように今後の学習指導の充実や学習状況の改善に生かしてまいります。

表の見方 ※記号：県や全国との比較

【上回っている(+3P以上)◎、だいたい同じ(±3P)○、下回っている(-3P以下)△】

<国語>

国語		県	全国
全体		△	◎
学習指導 要領の内 容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	○
		情報の扱い方に関する事項	◎
		我が国の言語文化に関する事項	△
	思考力、判断 力、表現力等	A話すこと・聞くこと	△
		B書くこと	△
		C読むこと	○
評価の観点	知識・技能	○	
	思考・判断・表現	△	
問題形式	選択式	△	
	短答式	○	
	記述式	◎	

<課題>

△ 主語、述語や助詞についての知識、理解が不足している。

△ 会話の中で相手の意見を理解した上で、自分の意見を論理的に築き上げていく力が不足している。

<改善の方策>

- ① 国語の説明文や全教科における課題の読み取りなどのとき、文法に着目し文章を読み取る活動を重視して取り組んでいる。5W1H はもちろん、助詞が文の意味を捉えるために重要な役割を果たしていることを指導していく。
- ② 発表あるいはスピーチを聞くことや授業で考えを記述することにおいて、相手の意見に対する批判的思考力を働かせたり自分の文章を客観的に見直したりする活動を取り入れている。伝えるための知識や技術をpushしていくことは大切だが、それ以上に相手が何を伝えたいのかを正しく判断できる力や相手の立場になって文章を作ることができる力を高めていく。

<算数>

算 数		県	全国
全 体		○	○
学習指導要領の領域	A 数と計算	△	○
	B 図形	○	○
	C 変化と関係	△	○
	D データの活用	○	◎
評価の観点	知識・技能	○	○
	思考・判断・表現	○	○
問題形式	選択式	△	○
	短答式	○	◎
	記述式	△	○

<課題>

- △ 問題文を「最後まで」正しく読み取る力が不足している。じっくりと問題に向き合うことができない。
- △ 情報量が多い中で、自分が必要とする情報のみを取り出し、それらがどのような関連性を持っているかを判断する力が不足している。

<改善の方策>

- ①国語の授業などで、長い文章にじっくり取り組む時間を確保するようにしている。また、図書館を利用して文章量が多い作品を読むことを推奨している。ただし算数の場合とても論理的に記述がされているはずなので、長い問題文から不必要な情報をどんどん捨ててシンプルに捉える技術を指導していく。
- ②問題文を論理的に読み取る活動を行っている。その中で着目するのは数字とキーワード、そして最終的に何を出すのかという問題の目的である。キーワードから数字同士の関連性を理解またはイメージできること、問題の目的を出発点として導き出した関連性を逆算していけること、最終的に問題の流れに従って関連性に数字を落とし込んで問題の目的まで論理を進めていけることを指導していく。

<学習状況調査>

- 「自分にはよいところがある」に肯定的に答えた児童が93%と自己肯定感が高い。
- 「人が困っている時は進んで助けている」に肯定的に答えた児童が92%と優しい子が多い。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」に、96%の児童が肯定的な回答をしている。
- △「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」で否定的な回答をしている児童が16%いる。
- △学習に関する興味・関心の領域で、国語・算数とも、その重要性は理解しているが、苦手意識を持っている児童も多い。
- △「新聞を読んでいますか」については、68%の児童がほとんど読んでいない。

学力調査と学習状況の回答結果からわかった成果と課題は、今後、全学年における指導に生かしていきたいと思っております。すでにお配りしている「家庭学習のすすめ」をご家庭でも参考にいただき、基本的な学習習慣が定着するよう学校と家庭が協働していきましょう。